

学校のように

第四回（令和3年6月25日）「三重県立みえこどもの城と建築科生徒とのオンラインミーティング」

先日（6月14日）、「三重県立みえこどもの城・椅子プロジェクトとSDGsダンボールプロジェクト」についてのオンラインミーティングが行われました。

「三重県立みえこどもの城・椅子プロジェクト」は、みえこどもの城の皆さんが、「子ども目線に立った机や椅子を置きたい」との思いから2017年にスタート。伊勢工業の建築科生徒がデザイン、模型、試作品を作成し、職人によって完成された椅子・机が毎年（これまで4回）、みえこどもの城に設置されています。毎年製作中に、プロの目線から様々な問題点やアドバイスをもらいながら完成させているので、年々バージョンアップし、とても質の高い製品となっています。「SDGsダンボールプロジェクト」は今年が初めてのプロジェクトです。

2015年の国連総会で、「世界中の人々が平等に安全に生きることができる社会を作るため」に17の目標が採択されました（SDGs17の目標）。この中に、環境や教育に対する目標があります。目標を達成するために自分たちができることとして、このダンボールプロジェクトが生まれました。この日の放課後、建築科実習室に集まった建築科生徒と「三重県立みえこどもの城」の皆さんが、オンラインで今年度のプロジェクトについて次のような話し合いを行いました。

【椅子プロジェクト】①コロナ禍なので、他の家族と一緒にならないように、一家族で利用できるものの提案。②製作する、机・椅子の使い方、形、寸法の確認。③提案している、机・椅子の実寸模型について。

【SDGsダンボールプロジェクト】①プロジェクトの今後の方向性の確認。②方向性の具体案について。③伊勢工業の生徒だけでなく、こどもの城やこどもの城に関わる企業と一緒にダンボールを使って遊具などを製作できるイベントの開催など（具体的内容は未定）。

アフターコロナの生活環境は大きく変わります。ステイホーム、リモートワークなど、家庭生活、生活に密着した製品デザインが重視されることでしょう。これにともなって、ものづくりの考え方、特に工業デザインも大きく変わることでしょう。その変化が今回の椅子プロジェクトに大きく表れるのではないかと、今回のプロジェクトが今後の伊勢工業高校の大きな節目になるのではないかと考えています。つづきは今後もお伝えします。お楽しみに！



みえこどもの城の皆さんと、建築科生徒達とのオンラインミーティングの様子